

No. 2

ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / 米、ブルーベリー、露地野菜

福島 光志さん (26歳)

(営農地 / 宗像市光岡)

農業は“自分の裁量”

《就農のきっかけ》

勘違い?“ゆとりある生活”に見えたんです!

福島さんが農業をしようと思ったのは、中学生の頃、昼寝をしている祖父の姿を見て、「農業ってこれでいいんだ。」と勘違いしたのがきっかけだそうです。「あとで知ったのですが、昔、祖父は兼業農家で、他にも仕事を持っており、忙しくしていたみたいです。完全に“ゆとりある生活”と勘違いしていました。」と笑顔。

大学は農学部へ進学しました。「さすがに、就農する時点では、農業の厳しさはわかっていました。ただ、自分で考えて仕事をつくり、自分のペースで仕事をし、昼寝もできる。“自分の裁量”でできるというのがやっぱり魅力です。サラリーマンになろうとは一度も思いませんでした。」福島さんの言葉に強い意志を感じました。

《これまでの過程》

農業後継者になる決意と自分の農業

「高校3年の時、親族で話し合い、母方の祖父の養子になりました。農地などの権利の関係上、必要なことでした。そして、大学を卒業後、すぐに就農しました。」お母様の実家には、農業を継ぐ後継者がなく、皆が賛成し、スムーズに手続きが進んだそうです。

孫の就農に備えて、おじ様が、田植機などの農業機械を新しく買いそろえてくれるなど、就農環境はとても恵まれていました。それでも、精米機やブルーベリー苗等の資本装備のために、就農して1~2年は多額の投資が必要でした。

しかし、福島さんは、おじ様の農業をそのまま引き継ごうとは思っていませんでした。「極力、農薬や化学肥料を使わない米づくりがしたいと考えていました。農業を始めた当初は、“米づくりに関してのやり方や考え方”に対する祖父との意見の食い違いで、ケンカになることもたびたびありました。すこしずつ農薬や化学肥料の量を減らし、実績を積みながら、祖父の理解を得る努力をしました。」と、自分の農業の確立について話してくれました。そして、自分でつくったこだわりの



プロフィール

■家族構成 / 祖父、祖母、本人、妻 ■営農年数 / 約4年
■耕作(経営)面積 / 4.5ha ■販路 / 直売

米はお客様に直接届けたいという思いから、直接販売を始めました。自分の思いを込めたチラシを一軒一軒手配りし、新聞の折り込みにも入れPRしました。初年度からお客様に好評で、口コミで広がり、規模拡大した今も販売は好調だそうです。

《これからの展望》

妻と一緒に加工にも取り組みたいです!

「農薬や化学肥料を使用しない米の栽培はなかなか難しいので、さらにスキルアップが必要。それと、米だけでなく、新たに麦や大豆の作付けに挑戦したいです。加工所を作って、妻と一緒に味噌やしょうゆ、パン用の小麦粉などを生産・加工し、直接販売できたらと思っています。」と、そばを通りかかった妻の早梨さんを見つめながら夢を語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

水田農業(米・麦・大豆)は、広大な農地や大型の農業機械等の資本装備が必要です。ゼロから始めるのは難しいと思います。水田農業を始めるなら、農業をリタイアする人の経営を継承する方法がいいと思います。まずは、研修や雇ってもらって地域の人の信頼を得ること。地域の信頼?それは、消防団に入り活動したり、地域の集まりにはきちんと参加したり、雑草をきちんと刈り、農地を荒らさないこと、つまり、地域に貢献できる人になることかな…。